

## 支援実績

次のようなプログラムに用いられました

### ◎伝道コンサート

湖美芳・愛の賛歌と人生  
旧聖堂さよならコンサート by EPO  
野外音楽祭 東京教区 音楽集団エルピス

### ◎公開講演会

H. ハンセン司祭 講演会  
渡辺政直主教 タンザニア 講演会  
斉藤惇夫氏 子どもの成長と絵本 講演会  
須田明夫氏 生と死を考える集い  
佐々木道人司祭 生と死を考える夕べ  
松本襄二氏 生と死を考える夕べ  
茂純子氏 キリスト教保育の原点を学ぶ  
畑野寿子氏 子育て講演会

### ◎図書や機材の購入

キッド・スクールの図書購入  
教会パンフレットの作成費用

### ◎人材派遣

夏期一泊教会学校への青年スタッフ派遣

### ◎教会交流・研修プログラム

道南4教会 共に歌い共に礼拝する会  
オホーツク3教会 オホーツク伝道と現代  
道南7教会 共に歌い共に礼拝する会

### ◎研修プログラム

サハリンの教会訪問と現地調査  
教会教育研修会

あなたの教会の宣教活動  
に必要な人材派遣も検討し  
ています。ご相談ください。



## お申し込みについて

申し込みには…

「宣教活動協力資金運用規定」、  
「宣教活動協力資金運用細則」が教会に  
備えられていますので、申請にあたっては  
事前にお読みください。  
また、所定の「申請書」及び「報告書」も、  
教会に備えられています。

複数教会協働では

該当教会間で協議して幹事教会を定め、  
幹事教会名でお申し込み下さい。

お問い合わせ

教区事務所を通してお尋ねください。

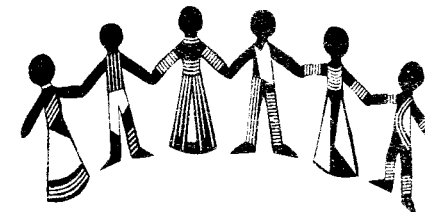
TEL 011-717-8181

FAX 011-736-8377

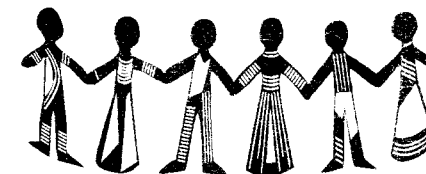
北海道教区2009年宣教標語

老人は夢を見、  
若者は幻を見る。

(ヨエル3:1)



利用のしおり



日本聖公会 北海道教区  
宣教活動推進部

## 宣教活動協力資金を 活用してみませんか？

「老人は夢を見、若者は幻を見る。」(ヨエル3:1)  
2009年度の教区の宣教標語です。

神様は、どのような時、どのような場所においても宣教の夢と幻とを、追い求め続けるよう私たちを招いておられます。ところが、いざ、宣教の新たな働きを企画し、進めようとする時、人材や資金の上で様々な困難に直面して断念してしまいそうになるのも、私たちが直面する、いつわらざる現実です。

北海道教区では、教会の宣教活動を応援するという目的をもって、1993年に「宣教活動協力資金」を創設しました。15年間に20件の利用がありましたが、「このような制度がある事を知らなかった。」「申請の基準が厳しい。」「規程が細かく手続きが面倒そう。」などの声が聴かれたのも事実です。

この度、教区では、そのような声に応え、資金を活用される教会の立場に立って、より申請しやすく用いやすいものとなるよう、教区会で規程の改訂を決議しました。

また、広くこの「資金」の存在をお知らせするために、このパンフレットを作成いたしました。特に、人数的に小規模で困難を抱えている教会や新たな宣教の取り組みを始めようとする諸グループにとって、この制度がお役に立つよう、願っています。

日本聖公会北海道教区 宣教活動推進部  
部長 司祭ペテロ大町信也

## 宣教活動協力資金Q&A

あなたの教会の宣教活動を応援します。  
教区の宣教活動協力資金をご活用下さい。

Q. 宣教活動協力資金ってなんだろう？  
A. 教区内の教会や複数教会が協力して行う宣教活動を応援するための資金です。

Q. 受けることができる額は？  
A. ひとつの宣教活動プログラムに対して最大20万円まで援助を受けることができます。

Q. 申し込みはどうすればよいのですか？  
A. 教会委員会で承認の上、所定の申込書で宣教活動推進部に申し込みます。

Q. 申し込みの時期はいつでもよいのですか？  
A. その宣教活動プログラム実施の3ヶ月前までに行います。

Q. 申し込んだら必ず援助してもらえますか？  
A. 宣教活動推進部で申請された活動内容を検討し、内容によっては申請教会とも協議して決定し、常置委員会の承認を得ます。

Q. 宣教活動協力資金は返済するのですか？  
A. 返済の必要はありません。但し、所定の報告書が必要です。

Q. 青年会やグループでも利用できますか？  
A. 教会内の諸活動や、グループ、教会が深く関わりを持つ活動も利用できます。その場合も所属する教会委員会の承認を必要とし、教会名で申し込みます。

Q. わからないことはどこに聞けばいいですか？  
A. 教区宣教活動推進部の部長か担当者までお尋ね下さい。



限られた資金ですが、多くの教会が宣教活動のために  
活用されることを願っています。